



統合50周年を祝う

2月17日(金)本校の統合50周年記念行事が行われ、小國神社の打田文博氏を講師に迎え、記念講演が行われました。講演会では、保護者の皆様、地域の来賓の皆様とともに「ガキ大将から60年—学んだこと、教えられたこと」と題した講話を拝聴しました。

【統合50周年記念行事のしおりより】

統合50周年を迎えて

校長 小松 渡

毎朝校門の前であいさつを交わしながら、子どもたちを迎えることが、私の一日のスタートです。その時に自然に目に留まるのが歴史を感じさせる石造りの正門です。裏には「一宮玉衣学童援護会寄贈」という文字が刻まれています。また、正門の脇には、園田小学校から移築された新貝直蔭翁の石碑が立っています。

昭和54年4月、私が教員としてのスタートを切ったのがこの宮園小学校です。旧体育館の真下が駐車場、車の出し入れに苦勞しました。現在の駐車場は、当時は大きな池でした。学級会のお楽しみ会で魚釣り大会をしたのもよい思い出です。あれから38年。教職生涯の最後に再び勤務することができ、しかも50周年を迎えることができたことの縁と幸せを感じています。

統合10周年記念に作成された郷土カルタに「夢かない、小國隧道、切り割りに」と歌われているように、山を崩して校舎を建て、山とトンネルの土で運動場を造成し、昭和43年9月に宮園小が誕生しました。その後、体育館、プール、正門の建設と次々に整備され、学校としての環境が整ったのが10周年を迎えた時でした。その後も、東校舎の増築、給食棟の建築、コンピューターの導入、体育館の建て替え等の整備がなされてきました。また、昭和47年に始まり、現在に脈々と続く幼小中一貫教育を根幹として、この50年間には様々な教育が実践されてきました。近年では、道徳教育総合支援事業に取り組み、保護者や地域の皆様の協力を得て大きな成果を上げました。

本年2月、次期学習指導要領の改定案が公表されました。主体的・対話的な学びを通して、①生きて働く「知識・技能」の習得②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の素養などを子どもたち一人一人に育んでいかななくてはなりません。私たち教職員自身が資質・能力の向上に努めるとともに、保護者や地域の皆様との連携を深め、「こころざしを持ち、たくましく生きる子ども」の育成に努めていきたいと思ひます。今後も、より一層の御支援と御協力をお願いいたします。

統合50周年に寄せて

PTA会長 大場 孝倫

一宮小学校と園田小学校が統合し、宮園小学校となり50年が経とうとしております。統合当時は校舎とグラウンドがあるのみでしたが、その後、プール、体育館が建設され、さらに、校舎の増築、近年には体育館建替、ランチルーム新設が行われ、設備の充実を図りながら時を経て来たことがうかがわれます。一方で、長い年月を経ても変わらないものがあると感じております。私は、この小学校の卒業生ですが、我が子が小学校に通うようになり、久しぶりに小学校を訪れた際、校舎とグラウンドが変わらずそこにあり、教室の配置、床や黒板、理科室の実験台なども当時のままで、大変懐かしく感じました。また、自然豊かな環境の中、元気に学ぶ明るい子供たちの姿も変わらないものだと感じております。

子供たちが素直で明るく元気に育っている背景には、各御家庭の環境が良い状態にあり、先生方の平日頃の熱心な御指導があり、そして地域の方々の温かい愛情があると感じております。

宮園小学校の実践目標に「あいさつありがとう運動」がありますが、この活動に参加して下さるボランティアの方が、保護者、先生方より圧倒的に多いという事に気が付きました。毎朝、交差点に立ち、子供を見守って下さるボランティアの方、通学時、付き添い一緒に歩いて下さるボランティアの方がいてくださいます。昔も今も変わらず、地域の方々が小学校を核として地域社会を形成し、将来を担う子供たちに愛情を注ぎ見守っていて下さるといふ事が良く分かります。このような素晴らしい環境の中で学ぶ子供たちは本当に幸せだと感じます。そして、このような環境を作って下さっている、諸先生方、保護者の皆さま、そして地域の方々に心より感謝しますと共に、今後、宮園小学校が60周年、70周年と、地域の核となり輝き続ける事を願ひましてご挨拶とさせていただきます。

(宮園小の前身である)一宮小の卒業生として、思い出話と思いを語る。小さいころに印象に焼き付いたことは、一生忘れない。感動したことが「自分もそうなる」という「ころざし」に変わることがある。今の世の中は、おぞましい事件がニュースの中に毎日のようにあり、「これでよいのか今の日本!」と思えることがある。教育は3つの柱(家庭の教育、学校教育、社会や地域の教育)まず、家庭教育で芽を出し、学校教育で花を咲かせ、社会や地域でもまれて実を付けていくものである。自分の子供時代は、学校が楽しくてたまらなかった。特に休み時間が。いたずらもたくさんしたし、喧嘩もたくさんしたが、相手が泣いたり逃げたりしたら終了だった。今の子供たちは、ゲームの中で、戦いが終わってもリセットできてしまうところが良くない。限度が分からなくなる。自分の幼いころ、家庭では祖父に厳しく作法を教えられた。よその家でマナーをほめられて、自分にそういうことが身についているのだと分かった。先生に叱られたと言え、その2、3倍家で叱られた時代だった。地域の中では、本当に怖いおじいさんがいて、よく叱られた。一方でそのおじいさんは杉玉鉄砲の名人でヒーローだった。祖父も地域のおじいさんも厳しかったが、「怒る」と「叱る」の違いは分かっている。先のおじいさんは子供たちのことを考えて叱っていた。



世界価値観調査の数字で見ると、「子供がいれば親は犠牲になっても仕方ない」と答えたのは、世界平均で76%に対して日本は38.5%しかない。親から愛されたことがない、ほめられたことがないから、その方法が分からないという親がいる。それらはその子供たちにつながっていく。どこかで正しいスパイラルに戻さないといけない。一方で、自尊心を持たせないといけない。高校生を対象にした調査では、自分を駄目な人間だと思う日本人の割合は66%ととても高い。感謝の気持ちを持つことが大事。感謝する「ありがとう」は「有難い」ことであり、反対は「当たり前」、いつもあると感謝しなくなる。3食が当たり前で食べられるのは普通のことでない。お袋の味が大切だが、それが袋の味(袋から出したものの味)に変わってしまっている。人間の心の中で、「畏れ、慎み、感謝」を大切に、家庭教育では絶対的な道徳をしつけとして行い、相対的な道徳は学校教育の中で育てていく。最後に生き残れるのは譲ることができる人である。目に見えない何かを生かされ見られているという心、感謝の心で暮らしていくことが大切である。

統合50周年記念の諸事業

本年度、統合50周年を記念して、数々の事業を進めてまいりました。それらを御紹介します。

【児童用テントの購入】



運動会の児童席で重宝しました。

【横断幕「あいさつありがとう」の新調】

プール西側フェンス

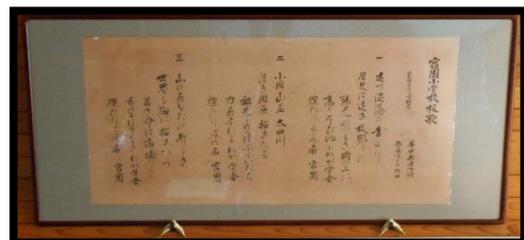


【投てき板の塗り替え】

6年生と学校長が
昼休みに色を塗って
仕上げています。



【校歌の額装～校長室】 傷んだ表具を直しました。



【記念植樹～カラタネオガタマ～通称:バナツリー】



体育館前に6年生と学校長で
定植しました。
5月頃にバナナのような香りの
花が咲くそうです。

さらに、運動会で撮影した全校写真を材料として、本校50年の歩みを記した「クリアファイル」を全児童に配布する予定です。3月中旬には完成する予定ですので、今しばらくおまちください。

これらの諸事業推進に当たっては、PTAの皆様や宮園小学校後援会の皆様に御理解をいただき、両会計から多大なる御支援をいただいたことを御報告申し上げます。記念に実施した数々の事業が次の10年、20年に受け継がれ、宮園小学校の新たな伝統となれば幸いに存じます。

